

大型・中型振動試験機

本部の開設にあわせ、従来から多くのお客様にご利用いただいている振動試験を強化し、本部1階に振動試験室を整備しました。従来よりも大型の試験品に対応できるようになりました。

大型振動試験機<新規導入>

これまで所有していた試験機と比べて、約2倍の加振力を有する振動試験機を、本部1階の振動試験室に導入しました。特長はテーブルのサイズで、1m×1mの大きさがあります。また、加振周波数の下限を従来の5Hzから3Hzに拡張しました。これにより、JIS Z 0232の附属書に示されている輸送振動を模擬したランダム試験を実施することが可能になりました。さらに、省エネ型の試験機となっており、試験条件や試験品の重量に応じて、最大50%(従来機種比)の消費電力削減を実現しています。

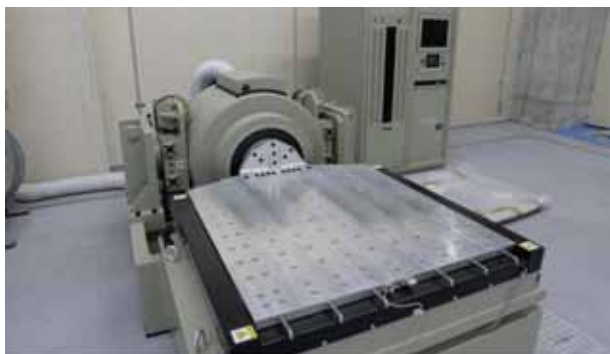


図1 大型振動試験機

F-35000BDH/LA36AW 正弦波加振力35kN

中型振動試験機<西が丘より移設>

旧西が丘本部の別館実験棟で使用していた試験機を、本部へ移設しました。これまでご利用いただいていたお客様にはお馴染みの試験機ですが、改めてご紹介します。大きさは、上記の大型試験機と比べると一回り小さいですが、その分使い勝手がよく、試験を効率的に行うことが可能です。テーブルサイズは630mm×630mmとなっており、電気・電子部品、

自動車部品、鉄道車両部品、包装貨物など、幅広い製品を対象に試験を行っています。この中型振動試験機は加振周波数範囲が都産技研で所有している試験機の中で最も広く、テーブルを外して試験機本体に直接試験品を取り付けた場合、3~3,000Hzまでの試験が可能です。航空宇宙産業向けの試験では、高い周波数までの加振が必要とされます。このような製品に対しては、この中型試験機が有効です。また、この試験機も省エネ型の試験機となっており、従来機種と比べて消費電力の低減を実現しています。

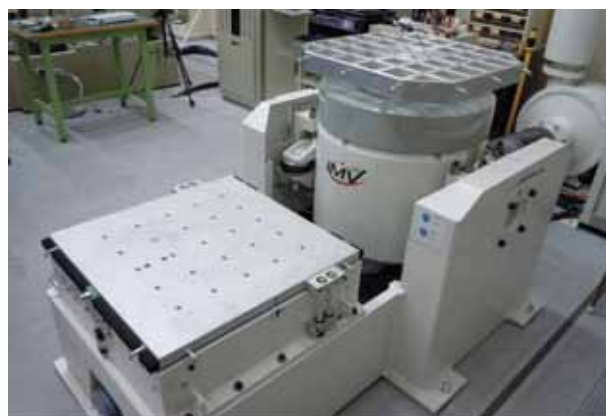


図2 中型振動試験機

EM2301正弦波加振力16kN

ご利用について

試験を行う際には、担当者と詳細な打合せが必要です。ご相談は、電話・メールで承っております。お問い合わせいただく際には試験品の基本情報(大きさ、重さ等)に加えて、次の事項を整理してお知らせいただくとスムーズになります。ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

[試験条件が決まっている場合]

- ・周波数範囲、加速度、加振時間など

[試験条件が決まっていない場合]

- ・試験の目的、製品が使用される環境など

開発本部開発第一部 機械技術グループ <本部>

福田 良司 TEL 03-5530-2570

E-mail:fukuda.ryouji@iri-tokyo.jp